

## 古処山における低木群落の保全に関する研究 (I)

— 古処山山頂の植生とオオベニウツギ —

九州大学農学部 岡野 哲郎・井上 晋  
小林 元

## 1. はじめに

天然記念物ツゲ原生林で知られる古処山(標高859.5m)は、福岡県甘木市と嘉穂町の境となる古処山地西端に位置する。山頂部から屏山にかけての尾根部は石灰岩の露出する痩せ尾根で、極めて急峻な地形である。ここは石灰岩地特有のヒメツゲやブンゴウツギ、九州では本山にのみ分布するハシドイ、マンシュウハシドイ、ツノハシバミ、さらに近年まで日本唯一の分布地とされてきたオオベニウツギなど、独特な植物相を持つ地域である<sup>2)</sup>。

本研究は、これまで分布や生態がほとんど明らかにされていなかったオオベニウツギをはじめ、群落を構成するヒメツゲやブンゴウツギなどの生態的特性を明らかにすることによって、低木群落の保全のための基礎的知見を得ることを目的としている。ここでは、まずオオベニウツギの世界的な分布範囲を明らかにし、さらに古処山における生育状態と、他の群落分布との関係について報告する。

## 2. 調査

オオベニウツギの分布に関しては、植物誌等<sup>1,2)</sup>による文献調査を行った。古処山における生育状態については、1994年6月および1995年5月に、古処山山頂部から屏山山頂部にかけて発見した全個体の位置、地際直径、樹高を計測し、さらに立地および生育状態の記録を行った。古処山山頂部の植生については、現地での植生調査に基づき、既存の植生図<sup>3)</sup>と航空写真を参考にし、群落区分と植生図の作成を行った。

## 3. オオベニウツギの分布

オオベニウツギ (*Weigela florida* A. DC.) はスイカズラ科タニウツギ属オオベニウツギ節の落葉低木で、ビロードウツギ (*W. praecox* Bailey) とともに種子に翼がないことでタニウツギ節に属する種と区別<sup>4)</sup>される。オオベニウツギの国外での分布は、ロシア極東、中国北

東部(黒竜江省、吉林省、遼寧省、河北省、内蒙古自治区、陝西省、山西省、河南省、山東省、江蘇省雲台山)、朝鮮半島にかけてであり<sup>1)</sup>、国内においては古処山および五家荘又志谷の2カ所<sup>3)</sup>のみである。ベニバナニシキウツギやビロードウツギと混同されてきたこともあり、これら2カ所におけるオオベニウツギの分布が確認されたのは最近のことである<sup>3)</sup>。近似種のビロードウツギも古処山に産する<sup>3)</sup>とされているが、今回の調査で生育が確認された個体は、葉裏面中肋上に顕著な白色毛が認められたことから、すべてオオベニウツギであるものと判断された。

## 4. オオベニウツギの生育状態

本調査において10個体を確認した。表-1は、各個体の樹高、地際直径、生育状態を示したものである。ただし1個体(No.7)については、地形的に接近することが不可能であったため、地際直径の計測はできなかった。樹高は2m以下の個体がほとんどで、No.2およびNo.3の2個体は株状であった。生育状態は、傾斜の緩い尾根の土壌上に生育する個体は直立していたが、斜面上での個体は斜上していた。

## 5. 古処山におけるオオベニウツギの分布域

図-1に古処山山頂部におけるオオベニウツギの分布域と植生図を示す。山頂部から東方の鞍部にかけての尾根部にヒメツゲ群落(オオヒメツゲ-サイゴクイボタ群落)が分布し、古処山北斜面の一部にはシラキーブナ群落ハイノキ亜群落、南尾根部にはアカシデーイヌシデ群落、他は、造林地を除きミヤマシキミーアカガシ群落が広く分布していた。オオベニウツギはヒメツゲ群落内に単木的に存在し、その分布域は山頂近傍の北向き斜面に限られていた。一方、ヒメツゲはアカガシなどの高木が上層に出現する高木群落においても中~下層に生育しており、ヒメツゲが優占する群落としての分布域よりも広い範囲に分布していた。

このように、オオベニウツギは低木群落の優占種で

あるヒメツゲとその分布に違いが認められ、このことは両樹種の環境適応能力の差に起因するものと考えられる。特に高木群落に出現しないオオベニウツギは、低照度域において生存できないものと類推される。一般に低照度域における成長特性は、後継樹の発生や定着を左右することから、両樹種の更新プロセスを明らかにするためには、今後、各生育場での環境モニタリングとともに、葉の光—光合成および物質分配特性等について解析を行う必要がある。

本研究において、鹿児島大学名誉教授、初島住彦博士、ならびに福岡植物研究会、筒井貞雄氏から、分類および分布についてご教示いただいた。また調査においては、大分西部営林署のご協力をいただいた。ここに記し、感謝の意を表する。

引用文献

- (1) 中国樹木誌編集委員会：中国樹木誌，1844～1846，中国林業出版社，北京，1985
- (2) 福岡県高等学校生物研究会編：福岡県植物誌，53～59，福岡，1975
- (3) 初島住彦：鹿児島島の植物，14，40，1995
- (4) 大井次三郎：新日本植物誌，1405～1407，至文堂，東京，1992

表-1 オオベニウツギのサイズおよび生育状態

No.	樹高 (m)	地際直径 (cm)	生育状態
1	2.0	35.2×36.7	尾根，土壌上，直立
2	1.7	36.4×36.6	尾根，岩上，斜上
		31.8×36.5	
		32.7×34.3	
3	2.1	40.6×42.3	尾根，土壌上，直立
		39.4×40.6	
		30.7×31.1	
		17.6×19.3	
4	1.4	24.5×24.7	斜面，岩上，斜上
5	1.8	25.1×25.9	斜面，岩上，斜上
6	1.4	29.6×32.1	斜面，岩上，斜上
7	1.5	？ ？	斜面，？，直立
8	1.2	17.8×18.8	尾根，土壌上，直立
9	1.8	21.7×22.7	斜面，岩上，斜上
10	1.9	16.1×18.0	斜面，岩上，斜上

注：地際直径は東西方向・南北方向の計測による。

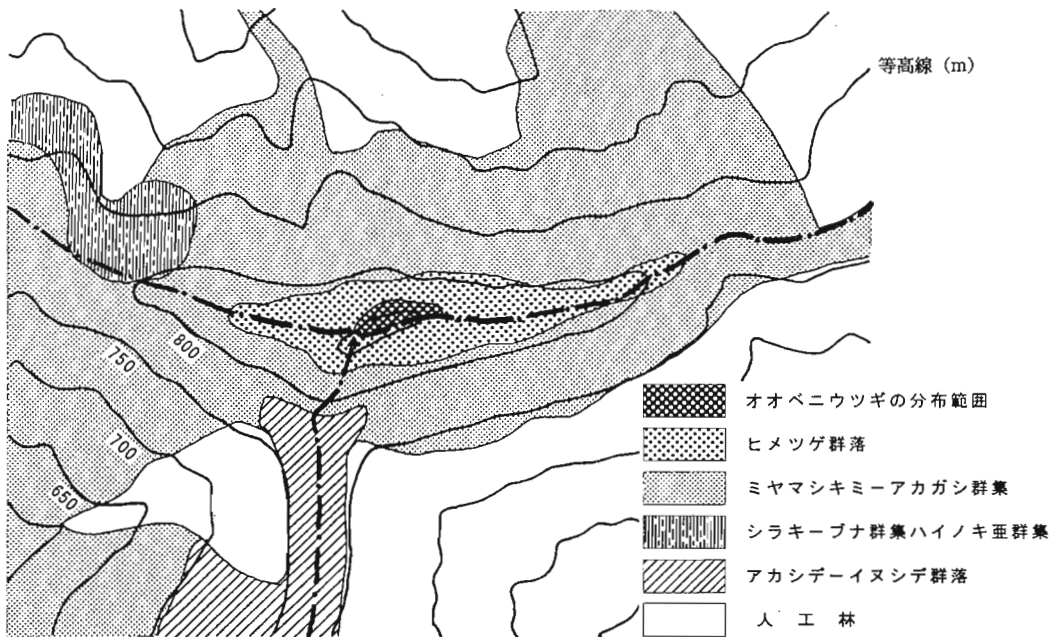


図-1 古処山山頂部における植生とオオベニウツギの分布域